

2

(30)

四面体 OABC を考える. 点 D, E, F, G, H, I は, それぞれ辺 OA, AB, BC, CO, OB, AC 上にあり, 頂点ではないとする. このとき, 次の間に答えよ.

- (1) \overrightarrow{DG} と \overrightarrow{EF} が平行ならば $AE : EB = CF : FB$ であることを示せ.
- (2) D, E, F, G, H, I が正八面体の頂点となっているとき, これらの点は OABC の各辺の中点であり, OABC は正四面体であることを示せ.

(1) \vec{DG} と \vec{EF} を $\vec{OA}, \vec{OB}, \vec{OC}$ で表してみよう!!

$\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}$ とする。

また、実数 p, q, r, s を 1より小さい正数として

$$OD:DA = p:1-p$$

$$OG:GC = q:1-q$$

$$AE:EB = r:1-r$$

$$CF:FB = s:1-s$$

とする。

$$\vec{DG} = \vec{OG} - \vec{OD} = q\vec{c} - p\vec{a}$$

$$\begin{aligned}\vec{EF} &= \vec{OF} - \vec{OE} = s\vec{b} + (1-s)\vec{c} - \{r\vec{b} + (1-r)\vec{a}\} \\ &= (s-r)\vec{b} + (1-s)\vec{c} - (1-r)\vec{a}\end{aligned}$$

$\vec{DG} \parallel \vec{EF}$ より k を実数として $\vec{EF} = k\vec{DG}$ を表せよ。

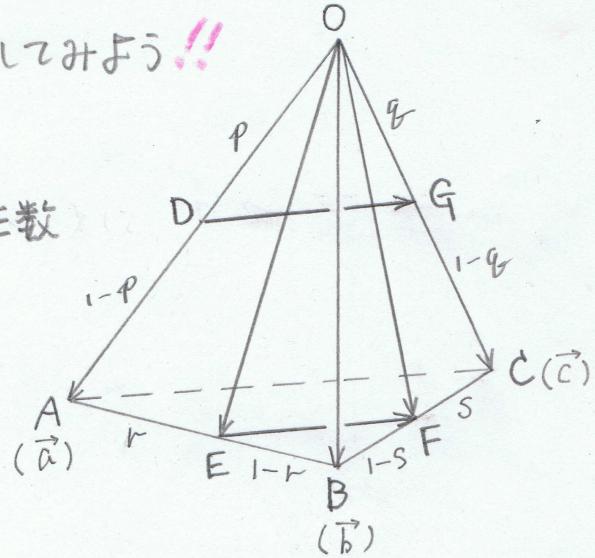
$$(s-r)\vec{b} + (1-s)\vec{c} - (1-r)\vec{a} = k(q\vec{c} - p\vec{a}) \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$\therefore \vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ は 1 次独立だから

$$s-r=0$$

$$\therefore r=s$$

したがって $AE:EB = CF:FB$ となる。



(2) D, E, F, G, H, I が正八面体の頂点 E から

四角形 DEFG は正方形であるから

$$\vec{DG} = \vec{EF} \text{ となるので}$$

① において $r=1$ となる。

つまり

$$(s-r)\vec{b} + (1-s)\vec{c} - (1-r)\vec{a} = q\vec{c} - p\vec{a}$$

すなは $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ は 1 次独立である

$$s-r=0$$

$$1-s=q$$

$$1-r=p$$

$$s=r, p=q, s=1-p, r=1-p \text{ となる。}$$

そして

$$OH:HB=t:1-t \quad (0 < t < 1)$$

$$AI:IC=u:1-u \quad (0 < u < 1)$$

とすると

四角形 DIFH は正方形であるから

$$\vec{DH} = \vec{IF} \text{ となるので}$$

$$\vec{DH} = \vec{OH} - \vec{OD} = t\vec{b} - p\vec{a}$$

$$\vec{IF} = \vec{OF} - \vec{OI} = p\vec{c} + (1-p)\vec{b} - \{u\vec{c} - (1-u)\vec{a}\}$$

より

$$p\vec{c} + (1-p)\vec{b} - \{u\vec{c} - (1-u)\vec{a}\} = t\vec{b} - p\vec{a}$$

$$(p-u)\vec{c} + (1-p)\vec{b} + (1-u)\vec{a} = t\vec{b} - p\vec{a}$$

すなは $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ は 1 次独立である

$$\begin{cases} p-u=0 \\ 1-p=t \\ 1-u=p \end{cases} \text{ より}$$

$$p=u, p=t, 1-p=p \text{ となり,}$$

$$1-p=p \text{ より } 2p=1 \therefore p=\frac{1}{2}$$

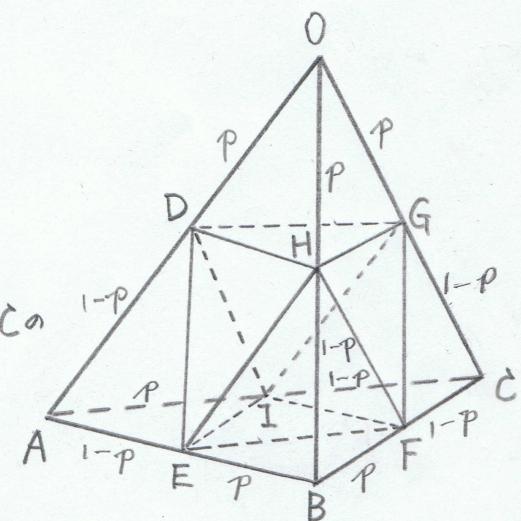
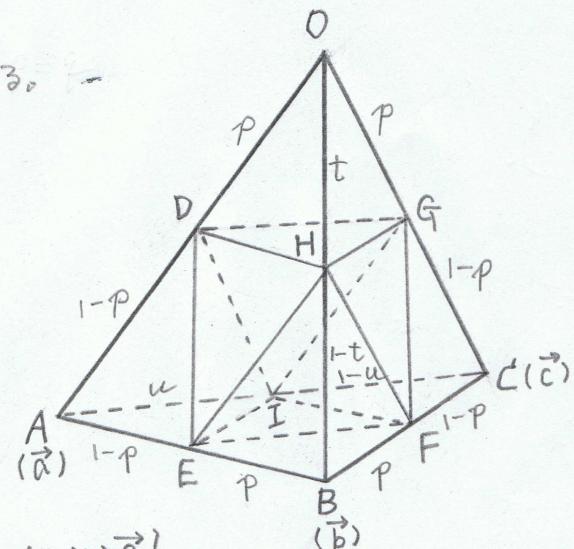
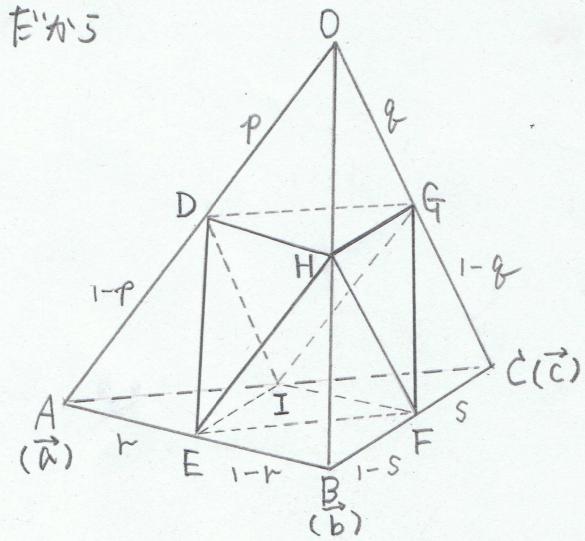
したがって、点 D, E, F, G, H, I は四面体 OABC の各辺の中点となる。

そして、中点連結定理より

$$AB=2DH, BC=2HG, CA=2GD \text{ であり}$$

$\triangle DHG$ は正八面体の 1 つの面だから $\triangle DHG$ は正三角形である

$DH=HG=GD$ となる。 $\triangle ABC$ も正三角形である。



同様に考えて $\triangle CAB$, $\triangle ABC$, $\triangle OCA$ も正三角形

$\triangle GIF$ が正三角形だから $\triangle OAB$ も正三角形,

$\triangle DEI$ が正三角形だから $\triangle OBC$ も正三角形,

$\triangle HFE$ が正三角形だから $\triangle OCA$ も正三角形

であるから、四面体 $OABC$ は正四面体である。